English Workshop

— Third Edition

edited by

The JACET Committee
on Teaching Materials

SANSHUSHA

学生諸君へ

本書は大学教養課程の英語の授業で使うために編まれたものである．このような文法中心のテキストを作ったのにはそれなりの理由がある．最近，大学に入学してくる学生諸君を見ていると，年ごとに英語の力が落ちてきている感じがする．これには中学校での英語時間数の減少，高校での文法面の負担軽減などの影響もあろう．基本的な英文の骨組みがはっきりせず，講読などでも単語を日本語に置きかえ，何となくつなげてしまうという場合も見られる．また学生諸君の中には細かい文法的な勉強より，かっこうよく会話でもできるようになりたいという傾向もある．

文法とは文の仕組み，構成のきまりである．いくら単語を覚えても，どのようにそれらを組み立てるかがわからなくては，英文の意味をはっきりつかむことも，また英文を作ることもできない．会話といっても Hello! Thank you. 等の日常の決まり文句以上に自分の考えをはっきり表現したり，相手の英語を正確に聞き取るには，英語の仕組み，文法をしっかり身につけておくことが必要なのである．英語の理解(読む，聞く)にも，表現(書く，話す)にも，つまりこれら4技能すべての習得のために，大学入学時にもう一度，系統的に文法の基礎をきちんと学習しておいた方がよいというのがこの本を作ろうと決意した動機である．

本書の前半8章は英文法の基本の復習にあてられている．文法項目を網羅的に扱うことをやめて，最も重要と思われることにポイントをしぼり，かなり掘り下げて文の仕組みを示すことに努めた．これをじっくり学習することで基礎を身につけ，文法を生きた体系としてとらえてくれれば幸いである．後半は最近の英文法研究の成果も取り入れて，今までとは違った観点から英語を見ることができるようにした．〈かたい表現〉と〈くだけた表現〉，また〈ていねいな表現〉と〈ぶし

つけな表現〉の違いにも注意を払うなど活用度の高いものをと心がけた。

どの章も Milward 先生の “The Home of English” と題するミニ・エッセイで始まる．写真を見て文学的な旅行記を読んでいくうちに，その章の文法事項に入っていけるように工夫されている．練習問題は特に多くしてある．数多くの問題を解いていくうちに文法事項が自然と身につくようになっている．

ぜひともこのテキストを活用し，英文法の基礎力をつけるとともに英語という言葉の仕組みに新しい目を開いてほしいと願う次第である．

先　生　方　へ　―三訂にあたり―

教材研究委員会では，前回の改訂以降も引き続き教材の検討を行ってきました．この教材を使ってくださっている多くの先生方からもレベルや練習問題などに関してさまざまなご意見をいただきました．そこで，当委員会は全国の先生方に再改訂のためアンケートをお願いして，貴重なご意見ご教授を数多くいただきました．その結果に基づいて改訂作業を進め，ここに三訂版が完成したことをご報告致します．

今回の改訂では，さまざまなご意見のもとに，練習問題の大幅な見直しを行ったほか，本文や例文にも随所に修正を加えました．また，10 章の「ストレスとイントネーション」では，例文，練習問題ともにネイティブ・スピーカーによるテープを用意しました．この改訂により，さらに充実した実用英語の演習ができることを期待します．

なお，今回の改訂作業は主として，相沢佳子，村田年，William F. O'Connor，高橋貞雄，上地安貞が担当しました．引き続いて多くの先生方からのご教授，ご批判をいただければ幸いです．

平成 2 年 10 月　　大学英語教育学会教材研究委員会

改訂版はしがき

教材研究委員会では，本教材の改訂にあたり，その予備調査として，まず全国でこの教材を使ってくださった先生方を中心にアンケートを実施しました．その結果に基づき，当委員会で何度か会議を開き，改訂箇所と新しいアイデアの導入を巡って議論を重ね，最終的に本改訂版が完成したことをご報告致します．

今回の改訂版では，広く先生方のご指摘をもとに，本文・例文・Exercises など随所に修正を加えました．さらに授業の活性化を図っていただくために，新たにヒアリング・チェックを導入しました．具体的には，各課のミニ・エッセイをヒアリング教材としても活用できるように，本文の内容についての "True or False" および "Questions and Answers" のいずれかを各課に 5 題ずつ設けました．

なお，今回の改訂版作成にあたり，新たに William F. O'Connor，矢田裕士，上地安貞の各委員が加わりました．

初版に引き続き，広く先生方の御批判をお願いできれば幸いです．

昭和 63 年 10 月　　大学英語教育学会教材研究委員会

初版本はしがき

昭和57年度から実施されている高等学校学習指導要領においては，言語材料のうち文法・文型項目の扱いが，かなり軽減されている．これは大部分の学生が，英文法のある部分をまったく習得していないか，あるいは学習した場合でもきわめて軽い扱いですませているということである．

また最近の英語指導のひとつの傾向として，平易な読み物をたくさん読ませたり，パラグラフの大意をとるやり方が行なわれている．それに加えて，学生の強い英会話指向がある．これは必ずしも悪い傾向ではないが，このやり方でうまく英語力を伸ばす学生が見られる一方，講読時の語法解説では十分な理解が得られない学生が増えているようである．

当委員会は昭和60年4月から10月にかけて，大学生の文法力の実態調査等を行ない，10月のJACET大会において発表した．その中でも特に，S＋V＋OとS＋V＋Cの文型の区別ができないこと，現在完了形，関係代名詞などの正しい使い方がわからないこと，などが明らかにされた．本テキストは，これらの欠落点を大学教養課程の英語の授業で補うべく編まれたものである．

全15章のうち，前半8章が基本編で，文法事項の復習をし，後半は応用編で英語学の新しい知見も盛り込んで，学生の好奇心を十分満足させ，なおかつ応用力をも養えるように工夫されている．各章の最初にMilward教授書き下ろしのエッセイがある．筆者吹き込みのテープも用意されているので，いろいろな活用の仕方が可能である．各章の文法事項の説明は，退屈な規則の羅列にならないように重点を絞った．さらに説明が必要な場合はご担当の先生に補っていただきたい．練習問題はできるだけ多くし，問題を解いていくうちに理解が深まるよう心がけた．各章は90分授業で2コマまたは1コマで終えるよう

に編集されており，年間 23〜24 コマを予定している．

本書は企画から構成・執筆・編集に至るまで当委員会の手弁当主義による合作であるが，その裏には共同作業特有の連絡・調整面での大きな困難があった．記述の至らぬ点も多いことと想像される．ご教示いただければ幸いである．

最後に当研究委員会の企画に賛同され，お忙しい中を 15 篇のミニエッセイをお寄せいただいた Peter Milward 教授，ならびに，文法説明と Exercises の全英文の校閲をしていただいた Paul Snowden 教授に対し，当学会として感謝の意を表したい．また天野一夫先生，松山正男教授および小池生夫教授からは何度か助言をいただいた．また当学会理事会・研究企画委員会の多くの方々のご援助を得た．本書が成るにあたって，これらの方々に心からの感謝の意を表したい，

昭和 62 年 1 月

大学英語教育学会教材研究委員会

(顧　問)	原沢正喜		
(委　員)	古川尚子*	前田　豊*	森住　衛
	◎村田　年*	中村匡克*	奥津文夫*
	○杉本豊久*	高橋貞雄*	竹前文夫*
(準委員)	相沢佳子*	榎本吉雄	平野絹枝
	小谷悠紀子	三好重仁*	森戸由久
	大沢ミナミ*	大島　真	田中茂範
	戸田征男	鳥飼慎一郎*	

(◎委員長　○副委員長　*編集委員)

Contents

THE HOME OF ENGLISH *by Peter Milward*

1. The Home of English — 1
2. Views from St. Paul's — 12
3. The Home of English Tea — 24
4. Peter Pan — 36
5. High Street, Oxford — 47
6. Bluebells in Oxford — 61
7. Stonehenge — 73
8. Shakespeare's Birthplace — 83
9. A Variety of Berries — 97
10. Duck-River — 109
11. Castle Walls — 117
12. The Game of Bowls — 124
13. Ivy on Walls — 130
14. Conversation with a Cow — 138
15. The Spire — 148

目　次

1.　文の構造（Sentence and Sentence Pattern） ……2

1.1.　文（Sentence）……2
1.1.1.　構造上の分類 ……2
1.1.2.　内容上の分類 ……3
1.2.　文型 ……4
1.2.1.　5文型 ……5
1.2.2.　〈There is〉構文 ……8
Exercises 1 ……9

2.　時制と相（Tense and Aspect） ……13

2.1.　時制と相 ……13
2.2.　現在時制（Present Tense）…13
2.2.1.　現在時制の用法 ……13
2.2.2.　現在進行形（Present Progressive）の用法 ……14
2.2.3.　現在完了（Present Perfect）の用法 ……15
2.3.　過去時制（Past Tense）……16
2.3.1.　過去時制の用法 ……16
2.3.2.　過去進行形（Past Progressive）の用法 ……17
2.3.3.　過去完了（Past Perfect）の用法 ……17
2.4.　未来（Future）の表わし方　17
2.4.1.　will［shall］の用法 ……17
2.4.2.　未来進行形（Future Progressive）の用法 ……18
2.4.3.　未来完了形（Future Perfect）の用法 ……18
2.4.4.　未来を表わすほかの方法・表現 ……18
2.5.　時制の一致（Sequence of Tenses）……19
2.5.1.　主節の動詞が過去，過去完了の場合 ……19
2.5.2.　時制の一致のルールに従わない場合 ……19
Exercises 2 ……21

3.　法助動詞と仮定法（Modal Auxiliary and Subjunctive Mood） ……25

3.1.　法助動詞 ……25
3.1.1.　法助動詞の2つの意味 …25
3.1.2.　対人関係を表わす場合 …26
3.1.3.　判断を表現する場合 ……28
3.1.4.　can と be able to, must と have to ……29
3.1.5.　should の特別用法 ……29
3.2.　仮定法（Subjunctive Mood）30
3.2.1.　仮定法過去（Subjunctive Past）……30
3.2.2.　仮定法過去完了（Subjunctive Past Perfect）……31
3.2.3.　仮定法を含む慣用表現 …31
Exercises 3 ……32

4.　名詞の構造（Noun） ……37

4.1.　名詞の種類 ……37
4.1.1.　数えられる名詞（Countable Noun）……37

4.1.2. 数えられない名詞 (Uncountable Noun) …38
4.2. 名詞の機能 ……39
4.3. 名詞句 (Noun Phrase) ……40
4.3.1. 不定詞 (Infinitive) ……40
4.3.2. 動名詞 (Gerund) ……41
4.4. 名詞節 (Noun Dlause) ……41
4.4.1. 接続詞に導かれる節 ……41
4.4.2. 疑問詞に導かれる節 ……42
4.4.3. 関係詞に導かれる節 ……42
Exercises 4 ……43

5. 形容詞の構造 (Adjective) ……48
5.1. 形容詞の機能 ……48
5.2. 形容詞の用法 ……48
5.2.1. 限定用法と叙述用法 ……48
5.2.2. 数量を示す形容詞の用法 49
5.2.3. 数字の読み方 ……50
5.3. 冠詞 (Article) ……50
5.3.1. 不冠定詞 (a, an) ……51
5.3.2. 定冠詞 (the) ……51
5.4. 形容詞の語順 ……52
5.5. 形容詞句 (Adjective Phrase) 52
5.5.1. 前置詞に導かれる形容詞句 53
5.5.2. 不定詞に導かれる形容詞句 53
5.5.3. 分詞に導かれる形容詞句 53
5.6. 形容詞節 (Adjective Clause) ……53
5.6.1. 関係代名詞が導く形容詞節 ……53
5.6.2. 関係副詞が導く形容詞節 54
5.7. 比較 (Comparison) ……55
5.7.1. 規則的な比較変化 ……55
5.7.2. 不規則な比較変化 ……55
5.7.3. 比較の用法 ……55
5.7.4. 比較を用いた慣用的表現 56
Exercises 5 ……57

6. 副詞の構造 (Adverb) ……62
6.1. 副詞の機能 ……62
6.2. 副詞の意味による分類 ……62
6.3. 副詞の位置 ……63
6.3.1. 述語動詞を修飾する副詞の位置 ……63
6.3.2. 異なった種類の副詞(句)の語順 ……64
6.3.3. 文修飾の副詞 ……64
6.4. 副詞句 (Adverbial Phrase) 65
6.4.1. 副詞の働きをする前置詞句, 名詞中心の句 ……65
6.4.2. 句前置詞によって導かれる副詞句 ……65
6.4.3. 副詞の働きをする不定詞 65
6.4.4. 分詞構文 ……66
6.4.5. 分詞構文の主語 ……66
6.4.6. 分詞構文の時制 ……66
6.4.7. 接続詞に導かれる分詞構文 ……67
6.5. 副詞節 (Adverbial Clause) ……67
Exercises 6 ……69

7. 前置詞 (Preposition) ……74
7.1. 前置詞の種類 ……74
7.1.1. 単一前置詞 ……74
7.1.2. 句前置詞 ……74

7.2. 前置詞の機能と文法上の特徴 ……74
7.2.1. 前置詞句の機能 ……74
7.2.2. 前置詞の目的語 ……75
7.2.3. 前置詞の後置 ……75
7.2.4. 前置詞の省略 ……76
7.3. 前置詞の意味と分類 ……76
7.3.1. 場所の前置詞（I） ……76
7.3.2. 場所の前置詞（II） ……77
7.3.3. 場所の前置詞（III）：その他の位置関係 ……78
7.3.4. 時間の前置詞 ……78
7.3.5. その他の前置詞 ……79
7.4. 句動詞 ……80
Exercises 7 ……81

8. 文の連絡（Linking Construction） ……84
8.1. 文の連絡 ……84
8.2. 関係詞節構造 ……85
8.2.1. 関係詞節に伴う省略（5.6.1.参照） ……87
8.2.2. 関係詞の制限的用法と非制限的用法 ……88
8.3. 接続詞（Conjunction） ……89
8.3.1. 等位接続詞（Coordinate Conjunction） ……89
8.3.2. 従位接続詞（Subordinate Conjunction） ……90
8.4. 接続副詞（Conjunctive Adverb） ……90
Exercises 8 ……92

9. 代用と省略（Substitution and Ellipsis） ……98
9.1. 代用と省略 ……98
9.2. 代用 ……99
9.2.1. 人称代名詞（Personal Pronoun）による代用 …99
9.2.2. 不定代名詞（Indefinite Pronoun）による代用 …100
9.2.3. 指示代名詞（Demonstrative Pronoun）による代用 …101
9.2.4. 代用動詞 do による代用 101
9.2.5. so と not による代用 …103
9.3. 省略 ……104
9.3.1. 主語の省略 ……104
9.3.2. 動詞句の省略 ……105
9.3.3. 名詞句の省略 ……105
Exercises 9 ……106

10. ストレスとイントネーション（Stress and Intonation） ……110
10.1. ストレス ……110
10.1.1. 語強勢と文強勢 ……110
10.1.2. 強勢と発音 ……111
10.1.3. 特殊な場合の強勢 ……111
10.1.4. 音調の中心の位置 ……112
10.2. イントネーション ……112
10.2.1. イントネーションの型 112
10.2.2. イントネーションと意味 ……113
Exercises 10 ……114

11. 新旧情報（Old and New Information） ……118
11.1 新旧情報 ……118
11.2. 新旧情報の表われ方 ……118

11.3. 新旧情報の文中の位置 …119
11.4. 新旧情報と構文 ……120
Exercises 11 ……121

12. 前提と焦点（Presupposition and Focus） ……125
12.1. 前提と焦点 ……125
12.2. It 強調文 ……125
12.3. What 強調文 ……126
12.4. 倒置文 ……127
Exercises 12 ……128

13. 視点と文理解（Viewpoint） ……131
13.1. 場所表現と視点 ……131
13.1.1 front／behind［back］, right／left ……131
13.1.2. across／through／along ……133
13.2. 時間表現と視点 ……134
13.3 移動動詞と視点：come／go, bring／take ……134
Exercises 13 ……136

14. 表現の様式（Mode of Expression） ……139
14.1. 英語の多様性 ……139
14.2. イギリス英語（BrE）とアメリカ英語（AmE） …140
14.2.1. 発音の比較 ……140
14.2.2. 綴りの比較 ……140
14.2.3. 語彙の比較 ……141
14.2.4. 語法上の比較 ……141
14.3. 文体差 ……142
14.4. ていねい表現 ……145
Exercises 14 ……146

15. 会話の機能と表現（Speech Act） ……149
15.1. 提案・勧誘 ……149
15.2. 忠告・申し出 ……150
15.3. 指示・依頼 ……151
Exercises 15 ……153

〈巻末付録〉
文法事項索引 ……156

略号一覧

( ) …… 省略可能
[ ] …… 置きかえ可能
＊ …… 非文法的な文
⇄ …… 書きかえ可能

1

THE HOME OF ENGLISH

Can you tell me where the English language is at home? All over the world today one meets native speakers of English. In Australia and New Zealand, in the United States and Canada, and in so many other countries, one may say that English is at home. But let me tell you that English is nowhere more at home than in England. For that is the original home of English.

One may regard the English language as a mighty river, like the river Thames. At first, the river is only a small stream, flowing past green meadows in the quiet countryside. But gradually it grows larger and larger, flowing past towns like Oxford and castles like Windsor. Finally, at London one may call it a mighty river.

Americans, of course, thinking of their Mississippi, may still call it a small river. But in making this remark, they are speaking in English. And so, to pursue my comparison, one may consider the American Mississippi a mere continuation of the English Thames. The one river, and the one language, is merely magnified in the other.

---

1 **is at home**「広く話されている，母国である，くつろいでいる」
7 **regard ～ as . . .** =think of ～ as. . .　8 **Thames** [temz]
11 **Windsor** [wínzə]　13 **Mississippi** [mìsəsípi]

1. 文の構造（SENTENCE AND SENTENCE PATTERN）

1.1. 文（Sentence）▷▷▷

文は話題となる主部と，話題について述べている述部で成り立っているのが普通である．主部の中心となる語を主語(Subject)，述部の中心となる語を述語動詞（Verb）という．

主部 ／ 述部
Fire ／ burns.
Your pretty little kitten ／ will grow into a cat.
／ Stop that horrible noise.
Good morning!

文の一部を成し，その中に〈S＋V〉の構造を含む語群を節(Clause)という．以下のイタリック体の部分は従属節であり，それ以外のところは主節である．

Can you tell me *where the English language is at home?*
A person *who has no morals* does not mind doing wrong.
If it rains tomorrow, we aren't going on a hike.

語が集まって，ある品詞に相当する働きをするが，〈S＋V〉の構造を含まない語群を句（Phrase）という．次のイタリック体の部分が句である．

We are learning *how to spell these words*.
It's time *for children to go to bed*.
Stained glass is used *to make colored pictures in church windows*.

1.1.1. 構造上の分類

文をその構造から分類すると，次の3種類に分けられる．

(1) 単文（Simple Sentence）：〈S＋V〉が１つだけの文．

I forget your name.

One may regard the English language as a mighty river.

Sitting in his baby buggy, in a local store the other day, was a child about a year old.

(2) 重文（Compound Sentence）：２つ以上の〈S＋V〉があり，等位接続詞（and, but, or など）で結ばれている文．２つの節は文法上対等の関係にある．

Tom played the piano, *and* I played the violin.

I haven't met Mr. Henry Brown yet, *but* I know of him.

(3) 複文（Complex Sentence）：２つ以上の〈S＋V〉があり，従位接続詞（that, whether, when, until, although, where, why, if, because など）または関係詞で導かれる節を含む文．

When the mist blew away, we could see the lake clearly.

Pat took off her left shoe *because* it was hurting her foot.

The boys went skating *although* they knew *that* the ice was thin.

Whipped cream is cream *that* has been beaten *until* it is stiff.

重文と複文が混じりあって，さらに複雑になった文もよく見られる．

If it is believed *that* a person has done something wrong *but* there is no proof, the person is said to be under suspicion.

1.1.2. 内容上の分類

文をその内容，機能によって分類すると，次の４種類に分けられる．平叙文，疑問文，命令文には，それぞれ肯定文・否定文がある．

(1) 平叙文（Declarative Sentence）：事柄を述べる文．

My sister is crazy about pop singers.

Much has happened since the war.

I don't wear my best clothes every day.

(2) 疑問文 (Interrogative Sentence)：疑問を表わす文．

疑問詞を用いる文と用いない文との2種類がある．

Are you a student at this university?

How did you put up your tent in this storm?

Which do you like better, beef ↗ or pork?↘

Would you like tea ↗ or coffee?↘

最後の文を上昇調にすると,「紅茶かコーヒーのようなものはいかがですか」となり，Yes か No を求める．

They arrived in Japan yesterday, didn't they?↘（または↗）

You haven't lost your sweater, have you?↘（または↗）

付加疑問文が下降調のときは，話し手に確信があり，相手に同意を求めていることを示し，上昇調のときは，話し手が相手に確認を求めていることを示す．

(3) 命令文 (Imperative Sentence)：命令・依頼・禁止などを表わす文．

Come and see me tomorrow.

Please stop your complaining.

Don't get excited, please.

(4) 感嘆文 (Exclamatory Sentence)：感嘆を表わす文．

What a nice house you have!

How hot and humid it was yesterday!

1.2. 文型 ▷▷▷

文の中心は動詞である．動詞の型で分類したのが文型であり，ほとんどの文が5文型にまとめられる．また動詞を大きく分けると，動作を表わす動詞と状態を表わす動詞があり，後者は進行形や命令文を作ることができない．

I am studying English. ／ Study the language. 〈動作動詞〉
*I am knowing English. ／ *Know the language. 〈状態動詞〉

1.2.1. 5文型

文型に用いる記号：S(ubject)＝主語，V(erb)＝動詞，C(omplement)＝補語，O(bject)＝目的語，A(djunct)＝付加語．

(1) 第1文型 (Ia) S ＋ V

S	V
Prices	rose.
Mary	sang (beautifully).
The baby	is crying (in the cradle).
My (little) brother	cannot swim.

SV型は主語と動詞だけで完結している文で，形容詞(句)または副詞(句)の修飾語がつくことがある．上の例では( )内に示してあるが，これらは随意的なものであり，なくても文法的に正しい文ができる．

(Ib) S ＋ V ＋ A

S	V	A
My sister	lives	by the lake.
The (three) girls	were	on the stage.

SVA型はSVのほかにAを伴って初めて文として成立する文型である．Aには場所を表わす句が来ることが多い．

(2) 第2文型 (II) S ＋ V ＋ C

S	V	C
The radio	is	a useful invention.
The river	grows	larger and larger.
She	became	a lawyer.
My father	looked	delighted.

SVC型をとる代表的な動詞は‘be動詞’であるが，ほかにも次のよ

うなものがある．いずれも S＝C のような関係が成り立つ．C（補語）は原則として名詞または形容詞である．

be 型（状態）：appear, be, hold, keep, look, remain, seem, stay, etc.

become 型（変化）：become, come, fall, get, go, grow, turn, etc.

注意 第 1 文型，第 2 文型で用いられる動詞は自動詞である．一方，目的語を必要とする次の第 3 文型，第 4 文型，第 5 文型で用いられる動詞は他動詞である．

(3) 第３文型 (IIIa) S ＋ V ＋ O

S	V	O
He	likes	to listen to music.
The secretary	finished	writing a letter.
I	would like	some coffee.
The (hungry) dog	dug	a (big) hole.
We	don't know	if he is at home.

SVO 型は目的語をとる．目的語は主として名詞，代名詞であるが，不定詞，動名詞等の名詞句，または名詞節も使われる．

(IIIb) S ＋ V ＋ O ＋ A

S	V	O	A
I	showed	my friend	to my room.
She	kept	the milk	in a (cold) place.
Tom	put	his arm	around her shoulder.
Who	supplied	our enemy	with guns ?

この文型の A（付加語）も Ib の A 同様に省けない．下の随意的な句と比較しなさい．

My father is eating lunch (in the kitchen).

(4) 第４文型 (IV) S ＋ V ＋ O ＋ O

S	V	O	O
She	gave	me	her (phone) number.

He	showed	us	the way.
They	bought	Mary	an ice cream.
She	made	her daughter	a dress.

SVOO 型は2つの目的語をとる．この目的語の位置をかえると，次のように書きかえられ，文型はSVOA 型になる．前置詞の違いに注意しなさい．

She gave her phone number *to* me.

He showed the way *to* us.

They bought an ice cream *for* Mary.

She made a dress *for* her daughter.

give 型（to をとる）：give, lend, send, show, tell, etc.

buy 型（for をとる）：buy, choose, find, get, make, etc.

注意 She asked me a question. → She asked a question *of* me. ask は前置詞 of をとる．

(4) 第5文型（V） S ＋ V ＋ O ＋ C

S	V	O	C
You	have made	me	happy.
I	found	this book	easy.
One	may call	it	a (mighty) river.

SVOC 型は O＝C の関係にある．1番目の例でいえば I am happy. という文が組み込まれているわけである．SVOO 型との違いを次の文例で比較してみなさい．

She made her daughter a dress. 〈SVOO〉

She made her daughter a nurse. 〈SVOC〉

SVOO 型は O≠O であるのに，SVOC 型では O＝C であることがわかる．次の書きかえで，SVOC 型が2つの文の合成であることがわかる．

I found this book easy. ⇌ I found that this book was easy. また，SVOC 型には C に原形不定詞，現在分詞，過去分詞，to 不定詞を

とる場合がある．

S	V	O	C
Her mother	heard	her	sing.
I	saw	the boys	quarreling.
He	had	his photo	taken.
The doctor	advised	me	to eat less.

O と C の間に，意味上の主語・述語の関係が成り立っているのが観察できよう．これも O＝C と広義にとれば，文型が理解しやすくなる．

次の例文により，C に原形不定詞がくる場合と過去分詞がくる場合の違いをつかみなさい．

I heard *my name* **called** (by someone).
I heard *someone* **call** my name.

He had *his photo* **taken** (by his brother).
He had *his brother* **take** his photo.

1.2.2. 〈There is〉構文

There is a picture on the wall.

There were two young girls spending their vacation in Hawaii.

There is something causing her trouble.

〈There is〉構文は第１文型の一種と考られる．〈There＋V＋S＋A〉の語順になることに注意すること．

注意 "There comes our bus." "There it comes." はこの構文と違い，'there' は「そこに」と場所を示している．また発音も［ðɛər］と強くなる．

EXERCISES 1

5つの英文を正しく聞き取り，この課のミニ・エッセイの内容と一致している（True）か，そうでない（False）かを確認しなさい．

A

1. 次の英文の文型を S，V，O，C，A を用いて言いなさい．

1) Mr. Wells sent a $200 check to her.
2) The night before Christmas finally arrived.
3) The first moon landing gave scientists a great thrill.
4) I put my suitcase on the rack.
5) Spoken words are easier to change than written words.
6) We are learning how to spell these words.
7) The next morning we found one of the windows broken.
8) The young daughter of the house was busy with paper and pencil.
9) Jack and Jane praised the picture hanging on the wall.
10) The toys were lying all over the floor.

2. （　）内の修飾語句を適当な位置に入れなさい．

1) We laughed.
(at him, so much, over his foolish behavior)
2) My daughter has got a job.
(who was out of work, new, as a secretary)
3) Mother bought me a necklace.
(nice, I had wanted, on my birthday)
4) Put the package on my desk.
(please, small, after you finish your work)

B

1.　次の各組の文には，同じ動詞が異なる文型で使われている．意味の違いを考えなさい．

1) a) The rose *smells* sweet.
   b) She *smells* the rose.

2) a) Somebody *called* me.
   b) He *called* me a liar.

3) a) I *found* a comfortable chair.
   b) I *found* the chair comfortable.

4) a) Did John *have* a bicycle ?
   b) Did John *have* his bicycle fixed ?

2.　指示に従って英文に直しなさい．

1) スミス氏は毎日日記をつけました．
2) 教室の中は暗くて何も見えなかった．(It で始めて)
3) その道路沿いにファースト・フードのレストランがある．
4) 彼は息子を外科医（surgeon）にした．
5) ジェインは夫が働き者であることがわかった．(find を用いて)
6) 私の妻はバスルームを明るいブルーに塗りました．
7) 母は私たちにパイを焼いてくれた．
8) ジョンは貧しかったのでパンを盗んだ．
9) たいへん忙しくてお手伝いできません．
10) 君はいつ頭を刈ってもらったのですか．

C

1.　次の各組の空所に同じ動詞を適当な形で入れ，文型と意味を言いなさい．

1) a)　The boy (　　) a paper plane.

b) Then he (　　) the plane fly.

c) The letter from our father (　　) all the family very happy.

2) a) Suddenly he (　　) back to the door.

b) Not all the leaves (　　) red or yellow in the fall.

c) I (　　) the pages of the book.

3) a) (　　) quiet.

b) (　　) milk cold.

c) Please (　　) this secret.

4) a) When did you (　　) New York ?

b) I (　　) my purse in the train.

c) It's five o'clock, and I had better (　　) now.

5) a) They (　　) this book at that bookstore.

b) This book (　　) very well.

2. この章の passage "The Home of English" から 5 文型のそれぞれに当たる文を 1 つずつ選び，書きなさい．